

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	老年看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2・3階
担当教員	溝辺 ゆかり	実務経験とその関連資格	看護師として病院等で勤務 溝辺 ゆかり			
《科目目標》						
事例を通じて老年期にある健康障害を持った対象の健康上の問題を抽出し、問題解決に向けた看護が実践できるための看護計画を立案し実践することが出来る。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】課題(36%)と授業態度(12%)、理解度テスト(12%)を含め合計60点満点で評価する(溝辺) 柏原先生の評価と合わせて総合評価100点とする 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシング・グラフィカ 24巻 高齢者の健康と障害① MCメディカ出版 (デジタル版) ナーシング・グラフィカ 25巻 高齢者看護の実践② MCメディカ出版 (デジタル版) ナーシング・グラフィカ EX 7巻 ③ MCメディカ出版 (デジタル版) ナーシング・グラフィカ 4巻 臨床薬理学④ MCメディカ出版 (デジタル版)						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行い授業に出席する。事前課題は必須						
《履修に当たっての留意点》						
①既習学習(老年看護学概論、高齢者の健康を支える看護、高齢者の健康障害と看護)を活用する。 ②成人老年看護学実習にむけて、高齢者の特徴と予備力を踏まえて看護上の問題を考える。 ③②を踏まえ看護過程の展開を通して、必要な看護が実践できるように主体的に学習に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	老年期の発達と課題が理解できる		シラバス 老年看護学① P.18-85 老年看護学② ワークシート	教科書の該当箇所を読み、予習して授業に臨む	
	各コマにおける授業予定	老年看護学の復習(老年期とは、発達課題、老年期の加齢に伴う変化、疾患の特徴と看護)				
第2回	授業を通じての到達目標	事例のアセスメントに必要な知識を身につけることができる		老年看護学①② 成人看護学③④ ワークシート	大腿骨頸部骨折について病態、診断、治療について事前学習しておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメントに関する病態・検査・治療の理解				
第3回	授業を通じての到達目標	アセスメントツールに基づいて情報整理・分析が出来る		老年看護学①② 成人看護学③④ ワークシート	生活歴 フェイスシート ヘンダーソンの14項目の視点において情報分類し、アセスメントしておく <input type="checkbox"/>	
	各コマにおける授業予定	アセスメント(フェイスシート、発達課題と生活歴、ヘンダーソン14項目)				
第4回	授業を通じての到達目標	関連図の書き方について〈講義〉アセスメントツールから情報の分析が行える		老年看護学①② 成人看護学③④ ワークシート	ヘンダーソンの14項目の視点においてアセスメントしておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメント(ヘンダーソン14項目)				
第5回	授業を通じての到達目標	関連図の書き方について〈講義〉アセスメントツールから情報の分析が行える		老年看護学①② 成人看護学③④ 講義資料	ヘンダーソンの14項目の視点においてアセスメントしておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメント(ヘンダーソン14項目)				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、優先度の高い看護問題が抽出できる	老年看護学①② 成人看護学③④ 講義資料	関連図を完成し、看護問題を抽出しておく
	各コマにおける授業予定	関連図を作成し、看護問題を抽出できる		
第7回	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、優先度の高い看護問題が抽出できる	老年看護学①② 成人看護学③④ 講義資料	看護計画を立案しておくこと
	各コマにおける授業予定	看護問題に着目して、個別性のある援助計画を立案する		
第8回	演習形式 授業を通じての到達目標	〈演習(実習室)〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	老年看護学①② 成人看護学③④ 講義資料	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
	各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第9回	演習形式 授業を通じての到達目標	〈演習(実習室)〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	老年看護学①② 成人看護学③④ 講義資料	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
	各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第10回	講義形式 授業を通じての到達目標	第10～15回は柏原先生のシラバス参照		
	各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式 授業を通じての到達目標	第10～15回は柏原先生のシラバス参照		
	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式 授業を通じての到達目標	第10～15回は柏原先生のシラバス参照		
	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式 授業を通じての到達目標	第10～15回は柏原先生のシラバス参照		
	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式 授業を通じての到達目標	第10～15回は柏原先生のシラバス参照		
	各コマにおける授業予定			
第15回	演習形式 授業を通じての到達目標	第10～15回は柏原先生のシラバス参照		
	各コマにおける授業予定			